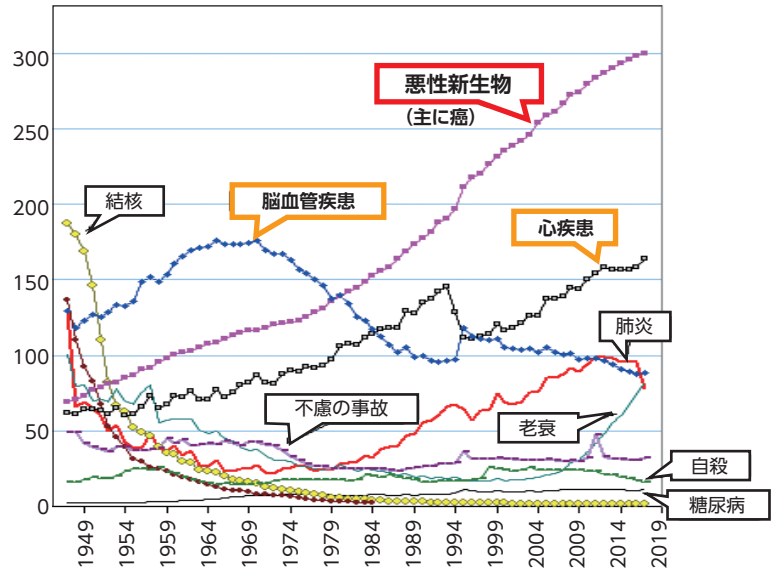
大腸癌が心配な患者さんへのアドバイス

日本人の三大死因は心疾患、脳血管疾患、悪性新生物（主に癌）です。このうち、心疾患、脳血管疾患は軽度の増加、減少傾向となっていますが、癌は増加傾向が続き死因の第一位を占めています（図 1）。国民二人に一人が癌になり、3 人に一人が癌で死亡すると予想され、国民の最大の敵とも言えます。

図1　癌はふえているのか？



死亡率の推移

癌のうちでも最も死亡患者数が多いのは、肺がんに次いで大腸癌（結腸癌と直腸癌を合わせて大腸癌と言います）で、特に都市部では大腸癌の患者が増加し、罹患数は胃癌、肺癌より多く、第一位です。

大腸癌は特に近年、治療法の進歩が著しく、早期に診断し、治療すればかなりの頻度で治ります。ただし、進行して見つかるほど、再発率が高く、生存率が低下します（図 2）。だからこそ早期に発見することが大切です。

図2　大腸癌の治療成績

病期	5年生存率
0	94%
Ⅰ	92%
Ⅱ	85%
Ⅲa	78%
Ⅲb	60%
Ⅳ	19%

大腸癌研究会全国統計

大腸癌はある程度進行しないと明らかに便に血が混じる、腹痛、便が出にくいなど腸閉塞の症状はでません。早期に発見するために最も簡便な検査法として便潜血試験が一般的に行われています。癌の表面からの出血を検知する試験ですが、癌からの出血していないこともあります。約 10%が陽性となりますが、陽性患者がさらに検査を進めた上で癌と確定診断されるのは 3 ～ 4%のみです。以前は注腸造影検査を行う施設が多くありましたが、近年では行う施設が少なくなりました。直接、大腸全体を内視鏡で観察でき、診断率が高い大腸内視鏡検査を行うことが多くなっています。

大腸癌は早期に発見すれば治る確率の高い癌です。また、癌の進み具合により適切に手術や抗がん剤などの治療を組み合わせることで治療効果を期待できる癌です。是非、かかりつけ医や主治医と相談して大腸内視鏡検査をうけることをお薦めします。

当院では大腸内視鏡検査や内視鏡治療は消化器内科が担当しています。
手術が必要な患者さんは外科・消化器外科、内視鏡手術センターが担当します。当科は大腸癌の腹腔鏡手術を専門領域とし、ほとんどの患者さんに対して最新の腹腔鏡手術を提供しています（図 3）。是非、ご相談ください。

図3　最新の腹腔鏡手術

順天堂大学東京江東高齢者医療センター　外科・消化器外科
内視鏡手術センター